日本刑法/岡山兼吉(講義) ; 畔上啓策(編輯)
(英吉利法律講義録(1886(明治19)年度 第1年級))

このPDFファイルは、英吉利法律講義録(1886(明治19)年度 第1年級)(原装本デジタル・データ)から、日本刑法の部分を抽出して編集したものである。

2015年7月　中央大学大学史資料課

日本刑法

法學士 岡山 兼吉 講義
校友 畔上 啓策 編輯

第壹回

緒言

日本刑法ヲ講スルニ先チ一言諸君ニ注意ス可キモノアリ諸君ハ法學通論ニ於テモ學ハレシナランカ法律ニハ公法ト私法トノ別アリ此區別タル獨リ内國ノ法律ノミナラス萬國ニ關スル法律ニ於テモ亦然リ乃國際公法ト國際私法トアルカ如シ公法トハ政府ト人民トノ關係ヲ規定シタルモノニシテ私法ハ一己人ト一己人トノ間ノ關係ヲ定メタルモノナリ私法ニ屬スルモノハ民法商法等ニシテ公法ニ屬スルモノハ憲法刑法等ノ如キ是ナリ

緒言 Criminal Law.

いPublic International Law
ろPrivate ,, ,,

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第3号(1886年10月2日発行)

刑法ハ政府ト人民間トノ關係ヲ規定シタル公法ノ一種ナルヲ以テ政府卽撿察官ニ於テ其違背者ニ對シ公訴ヲ起ス契約法私犯法ノ如キハ私法ノ部類ニ屬スルモノナルヲ其違背ヲ訴フルニ當リテハ毫モ干渉ヲナサス其被害者タル者ノ請求ヲ待テ相當ノ官衙ニ要求シテ以テ其救正ヲ與ルニ止マルモノトス

刑法ナルモノハ公法ノ部類ニ屬シ採リモ直サス政府ト各人民ノ約束ナルヲ以テ一私人相互ノ契約ノ如ク千緒萬端ナルコトナシ從テ之ヲ改良シ易シ故ニ私法等ヨリモ先キニ其ノ編纂ニ着手スルハ之ヲ古書ニ徵スルモ人ヲ殺スモノハ死ス等ト云フノ語アルヲ見テ知ルヘキナリ民法憲法ノ如キハ世體ノ開クルニ從テ制定スルモノナリ殊ニ民法ハ其土地人情風俗ノ爲メニ左右セラルヽ所アルモ刑法ハ之ニ反シテ政府ノ權ヲ以テ作ルモノ故ニ之ヲ布クコトモ亦容易ナリトス泰西各

國ニ於テ私法ヨリ公法ヲ先キニ制定頒布スルハ蓋此理ニ因レルモノ乎

然レトモ此刑法ナルモノハ民法ノ如ク人民相互ノ間ニ違約セシモノヽ如キ何事ニテモ罰スルモノニアラス豫メ條項ヲ設ケテ之ニ背違スル者ヲ罰ス而シテ之ヲ罰スルニ民法ノ如ク錯雜セサルヲ以テ研究上ノ便利モ少ナカラサルナリ日本刑法ノ如キモ明瞭ナル條項ノ設ケアルヲ以テ大ニ解シ易キ所アリ然ルニ其條項タルヤ時宜ニ由テ之ヲ定メス四百餘條中ニ網羅シ盡シタルヲ以テ實際ノ適用上困難スル所ナキト雖之ヲ適施スルニ當テハ右ハ第何條ニ擬スヘキモノナル等民事法律ヲ解スルヨリ却テ難キヲ覺ユルモノアリ況ヤ又刑事ニ至テハ民事ノ如ク唯財產上ノ關係ノミナラス人ノ最貴重ス可ヘキ身體性命ニ關係スルモノアルヲ以テ一朝之ヲ誤リシヨリ起ル所ノ弊害ハ實ニ少

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第3号(1886年10月2日発行)

々ナラサルモノアリ

刑法ハ政府ト人民トノ間ニ在テ約定ヨリ制定セシモノナレハ何人モ此約ヲ爲サヽル可カラス又之ヲ約セスシテ其政府ノ下ニ居ラント欲スルモ能ハサルナリ故ニ刑法ハ最注意シテ學フ可キナリ

元來本校ハ英吉利法律學校ト稱シ只表面上ニ於テ法律ノ何物タルヲ教フルヲ以テ足レリトセス斯學ヲ修メテ實事ニ當リ其運用ヲ圓滑ナラシムルヲ勉ムルニ在リ且又諸君ノ刑法ヲ學フヤ啻タニ日本國民タルノ本分ヲ盡ス爲メノミニアラスシテ自營ノ道ヲ計ルノ一器ヲ作ルニアレハ最精密ニ攻窮セサルヘカラス日本刑法ハ僅ニ四百餘條ナレトモ精密ニ之ヲ研窮スルハ實ニ容易ノ業ニアラサルヲ以テ余ハ唯此法ノ骸骨ヲ講スルニ止メン諸君ハ之ニ筋肉ヲ附ケ終始怠ルコトナケレハ必期ス有要ノ才ヲ養ヒ得ルコトヲ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第3号(1886年10月2日発行)

法律學者海ニ於テ日本刑法ヲ說キ講スルニ佛蘭西學者ノ如ク兎角箇條ヲ追フテ註解ヲ下スモノ多シ余ハ之ニ換ヘテ學問上ヨリ其法理ノ存スル所ノ大体卽骸骨ヲ說明シ漸次粗ヨリ密ニ入ラント欲ス諸君ハ之ヲ見テ以テ其大要ヲ知ルヲ得ハ幸甚

第一章　刑法上ヨリ起ル權利義務ノ性質

刑法上ヨリ起ル權利義務ノ性質

凡何物ニ限ラス之ヲ學フニハ其性質ヲ知ラサル可カラス是レ恰モ水ノ何タルコトヲ講スルモノハ水ノ性ヲ知ラサル可カラサルト同一ナリ諸君モ知ラルヽ如ク法律ナルモノハ何等ニ關セス權利義務ノ關係ヲ生シ必スヤ權利ヲ有シ義務ヲ負フモノナカル可カラス故ニ此二者ノ誰タルヲ知ルハ法律ヲ攻窮スルニ當テ最必要ノコトナル可シ既ニ前ニモ述ルカ如ク刑法ナルモノハ政府ト人民トノ關係ヲ規定スル一ノ公法ナルヲ以テ此法ニ背反シタル所爲ヲ名ケテ公犯ト云フ公犯ト

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第3号(1886年10月2日発行)

ハ其意社會一般ニ對シテ違犯シタルノ所爲ナリ果シテ然ラハ此公犯ナルニ字ハ卽刑法上ヨリ生スル所ノ權利義務ノ關係ヲ明カニスルニ足ルモノト言ハサルヲ得ス何トナレハ刑法ニ背キタルノ所爲之ヲ公犯ト稱シ社會一般ニ對シ違犯ノ所爲トナストキハ其權利者ハ卽社會一般ナラサルヘカラス而シテ其公犯ノ所爲ハ一人一已ノ所爲ニテモ能クシ得ルトセハ其義務者ハ自ラ一人一已ニテモ負擔スルモノト解釋セサル可カラス之ヲ要スルニ刑法上ヨリ起生スル所ノ權利ハ卽其國一般ノ公衆カ連帶一致シテ無形人トナリ之ヲ有スルモノニシテ其義務ハ卽其國一般ノ能力者或ハ特種ノ身分ヲ有スル能力者カ各人每ニ相分擔スルモノトス此故ニ我治罪法ニ於テモ公犯ニ對スル訴訟ハ之ヲ公訴ト稱シ我國民全体ノ主權者タル　天皇陛下卽政府ヲ代表スル檢察官之ヲ行フモノナリ是レ社會公衆カ其公犯ノ被害者タルヲ明

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第3号(1886年10月2日発行)

はCivil injury
にPublic injury

示スルモノト謂フヘシ

偖公犯私犯ノ區別ヲ說明シテ公犯トハ公ニ背キタルノ所爲ヲ云ヒ私犯トハ一己人ト一己人トノ間ニ存スル規則ニ戻リタルノ所爲ヲ云フト斯ク一刀兩斷ニ單純ナル解ヲ下ストキハ別ニ困難ナルコトナシト雖退テ己レ自ラ立法者ノ地位ニ立チ果シテ如何ナル所爲ハ公犯ト認メ以テ刑法上ノ制裁ヲ付スヘキ乎又果シテ如何ナル所爲ハ唯私犯トシテ民法上ノ責任ヲ負ハシムレハ足レリトスヘキ乎ヲ觀察シ又或ハ司法官代言人等トナリ如何ナル所爲ヲ公犯ト認メ如何ナル所爲ヲ私犯ト認メ其所爲ニ相當ナル手續ヲ盡スヘキモノナル乎ヲ按スルニ當テ其區別ヲシテ判然ナラシムルコト蓋容易ノ業ニアラサル可シ然ルニ之ヲ容易ナリト云フハ是恰モ博物學ヲ知ラサル物カ禽獸草木ヲ見テ兩翼アルモノ之ヲ禽ト云ヒ四足アルモノ之ヲ獸ト云ヒ根アリ葉ヲ

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第3号(1886年10月2日発行)

生スルモノ之ヲ草木ト速了スルカ如シ然レトモ專門學者ハ其區別ノ頗ル錯雜ニシテ此間容易ニ一定ノ界線ヲ畫スル能ハサルニ苦ムカ如クニシテ苟法律家トシテ公犯私犯ノ區別ヲ實際ニ應用スルコト亦決シテ容易ノコトニアラサルナリ刑法第二條ニ「法律ニ正條ナキモノハ何等ノ所爲ト雖之ヲ罰スルコトヲ得ス」ト云フ中ニモ其事實ヲ見テ刑ヲ適用セント欲スルモノアリテ隨分困難ナルモノナリ

公犯私犯ノ區別タル右ノ如ク定ムルト雖公犯ニ關スルモノヽ中ニハ私犯ヲ含有セルモノアリ例ヘハ契約違反ノ所爲ノ如キ誠ニ一私人ノ權利ヲ害スルニ止マルカ如シト雖今其契約違反ヲシテ人々ノ勝手タラシメ官衙ニ於テ其違反セラレタル者ニ對シ何等ノ保護ヲモ與ヘサルカ如キコトアレハ其惡例忽チ蔓延シ財產ノ安固ハ一日モ保存スル能ハサルニ至ル可シ然レハ則契約違反ノ所爲タル亦多少公犯ノ性質

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第3号(1886年10月2日発行)

ヲ含蓄スルモノト言ハサルヲ得ス公犯ノ如キ殺人罪ト云ヒ放火罪ト云ヒ强盜罪ト云フ皆一般ノ安寧公益ヲ害シタルニハ相違ナシト雖此罪ヲ犯サレタルニ由テ害ヲ被リシ者ハ一個特別ニ他人ヨリモ多ク迷惑ヲ受ケシニ相違ナシ左レハ公犯ト云ヒ私犯ト云フ其間毫モ區別ナキカ如ク其標準ヲ立ル實ニ難シト謂フヘシ則同一ノ事柄ニ付テモ此國ハ民事ニ由テ處分シ彼國ハ刑事ニ由テ處分スルモノ少ナカラス他日萬國刑法ヲ制定スル時ニ及ンテハ定メテ其困難ヲ窮ムルコトナルヘシ

抑社會公衆ヲ害スル所爲卽公犯ト云ヒ又一私人ニノミ損害ヲ蒙ラシムルノ所爲卽私犯ト云フモ蓋之ヲ要スルニ程度ノ如何ニ關スル問題ニシテ之ヲ精密ニ論窮スルトキハ法律ヲ犯スノ所爲タル悉ク社會ノ惡例トナリ多少社會一般ヲ害セサルモノ決シテ之アラサルナリ是ニ

依テ之ヲ觀レハ其公犯ト云ヒ私犯ト稱スルモノハ立法者ニ於テ或ル所爲ハ社會公衆ヲ害スルコト大ナルヲ以テ之ニ刑法ノ制裁ヲ付シ或ル所爲ハ一私人ヲ害スルノ外格段ナル害毒ヲ社會ニ流サヽルカ故ニ之ニ刑罰ヲ加フルノ必要ナシト認ムルニ止マリ學者豫メ論理ヲ以テ之カ範圍ヲ規定スル能ハサルモノト解スルノ外アラサルナリ故ニ余ハ左ニブルーム氏ノ公犯ノ定義ヲ掲ケ以テ諸君カ其大体ノ意味ヲ理會スルノ參考ニ供ス可シ

ブルーム氏曰凡如何ナル行爲ヲ公犯ト認メ之ヲ公訴シ以テ刑罰ニ科ス可キモノナルコトヲ豫定スルハ實ニ容易ノ事ニアラサルナリ若夫レ我國法曹カ異口同音ニ論スル所ノ彼ノ公訴ハ英國配下ノ人民一般ニ損害ヲ及ホスノ行爲ニノミ適用ス可キ規則ニ據ル可キ者トセハ配下ノ人民一般ノ損害ニハ配下ノ人民盡ク一樣ノ損害ヲ蒙ムル者ト解

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第3号(1886年10月2日発行)

刑罰ノ性質

セス配下人民一般カ其損害ニ大小ノ差アリト雖多少之ヲ蒙ムル者ト註解セサル可ラス而シテ公犯私犯ノ差別ノ大要ハ重モニ左ノ點ニ在リ私犯トハ一私人タル資格ヲ有スル一個人ノ權利ヲ害スルカ或ハ剝奪スルノ行爲ヲ稱シ公犯トハ全社會ヲ包括シテ一個人ト認メ其一個人タル資格ヲ有スル全社會ノ權利ヲ害シタルコト犯罪者カ全社會ニ對シテ負擔スル義務ニ背戻シタル行爲ヲ稱ス(ブルーム氏法律註解第四第五葉)而メスチーブン氏ラッセル氏等ノ説ク處亦之ニ外ナラサルナリ」却説此刑法ニ違背スルトキハ其制裁トシテ科スルモノハ卽刑罰ナリ然ラハ刑法ナル文字ヲ貫徹シテ了解セントスルニハ自然刑罰ノ何物タルヲ討窮セサルヘカラス而シテ刑罰ノ性質ヲ討窮スルニハ左ノ點ヲ分明ニスルヲ要ス

第一、主治者カ刑罰ヲ科スルノ權力

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第4号(1886年10月9日発行)

刑罰權 Right of Punishment

第二、刑罰ノ目的

第三、刑罰ノ輕重權衡ノ程度

第二回

(第一)主治者カ刑罰ヲ科スルノ權力

何故ニ主治者カ犯罪アレハ刑罰ヲ科シ得ルヤノ疑點ニ付テハ歐洲大陸性法家ノ諸說紛々トシテ眞僞何レニ在ルヤヲ窺ヒ知ルニ由ナシ夫天ノ人ヲ生スルヤ其原始完全無缺決シテ自由ヲ箝制セス然ルニ人能ク其自由ヲ殺キ其性命ヲ絕ツ蓋理由ナクシテ可ナランヤオースチン派ノ法學者ハ或ハ言ハン凡主治者ナル者ハ其國最上ノ權力ヲ有スルカ故ニ事實之ヲ執行スル實力アリ從テ又之レヲ罰スルニ何ノ不可カアラント夫然リ而レトモ主治者ト雖多少之レヲ罰スルノ原因ナクシテ徒ニ刑罰ヲ加フルモノニアラス道義上之レヲ罰スルノ權力ヲ生ス

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第4号(1886年10月9日発行)

ル原因ハ抑何等ニ本クモノナリヤ之レヲ討窮セサルベカラス

凡犯罪ニハ固有ノ惡ト法禁ノ惡トノ二種アリ先其差別ヲナシ各種類ニ付之カ説明ヲナサン

固有ノ惡

其一、固有ノ惡トハ其生蠻ナルト文明社會ナルトニ論ナク其所爲人間存在ニ害アルヘキ者ヲ云フ

例ヘハ殺人、强盜ノ如シ斯等ノ所爲ハ卽之ヲ防遏スルニ非レハ一日ト雖人間社會ノ成立ヲ保維スル能ハス故ニ古昔未タ政治上ノ救濟ナキ時ニ於テハ被害者若クハ其遺族親戚等ニ於テ各復仇セリト雖世ノ漸次進步スルニ從ヒ終ニ主權者ノ之ヲ罰スルコトヽナレリ要スルニ主權者之ヲ罰スルニアラサレハ被害者之レヲ罰スルノ權力アリ到底何レカ此權力ヲ有スルヲ以テ此論題ヲ解説スル至難ノ事ニアラサルナリ」

法禁ノ惡

其二、法禁ノ惡トハ元來惡ニアラサルモ一國行政上ノ便宜ノ爲メニ

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第4号(1886年10月9日発行)

ろ Object of Punishment.
に Absolute.
は Relative.

刑ノ目的

害アル者ヲ云フ例ヘハ烟草税則ニ背ク者ノ如シ斯等ノ罪惡ヲ罰セサレハ行政上ノ便宜ヲ害シ其國ノ成立ヲ保持スルコト能ハストス是故ニ一國施政ノ最上權ヲ有スル主權者ハ其權力ヲ執行スルカ爲メ自然右法禁ノ惡ヲ防遏セサルヘカラス之レヲ防遏スルニ時宜ニヨリ刑法上ノ制裁ヲ科セサルヲ得ス是レ其刑罰權ヲ主治者カ有スル原因ナリトス去レハ立法者トナリ法禁ノ惡ニ附刑罰ヲ加ヘントヽ欲セハ先其禁遏スヘキ所爲ハ果シテ行政上ノ便宜ヲ害スルヤ否ノ點ニ付最注意スルヲ要ス

其一、（第二）刑罰ノ目的

刑罰ノ目的ニ就テハ諸説紛々更ニ一定セス今之レヲ大別シテ絶對派（アブソリユート）ニ相對派（はリラチーブ）ノ二派トス其絶對派ヲ主張スル者ノ言ニ曰ク刑罰ハ卽刑罰ニシテ刑罰ヲ以テ他ノ目的ヲ達スルノ方法ト見ルヘキ者ニアラス刑罰

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第4号(1886年10月9日発行)

即チ目的ナリト而シテ其相對派ヲ主張スル者ノ言ニ曰ク刑罰ハ器械ナリ方法ナリ最上ノ目的ニアラサルナリ即チ他ノ目的ヲ達セント欲シテ設ケタル手續ナリ之レヲ以テ相對派ノ學者ハ其達スヘキ目的ノ何ナルヤニ關シテ又タ支派ヲ生セリ即チ左ノ如シ

一　威儀主義
二　矯正主義
三　保護主義
四　防禦主義
五　豫戒主義
六　賠償主義
七　契約主義

今斯ノ如キ主義ニ付キ一々説明ヲナスハ立法上ニ亘リ余ノ受持課目外

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第6号(1886年10月23日発行)

トナルヲ以テ之ヲ省キ唯タ其大要ヲ掲ケンニ

其一　威儀主義トハ卽チ社會公衆ヲ威懼スルヲ以テ刑法ノ目的ナリト主張スル者ヲ云フ

其二　矯正主義トハ犯人ノミヲ矯正シテ善ニ導クヲ目的トスル者ナリ

其三　保護主義トハ國ヲ保護スルノ權ヲ擴張セン爲メ之レヲ罰スルナリト主張スル者ナリ

其四　防禦主義トハ刑罰ハ犯人ヲ懲戒スルニアラス將來社會ニ同一ノ犯罪行爲ナカラシメン爲メニ科スル者ナリト論スル者ナリ

其五　豫戒主義トハ先ツ豫メ刑罰ヲ置キ社會ヲシテ之ヲ爲サシメサルヲ目的トナスト論スル者ナリ

其六　賠償主義トハ社會ノ一人ヲ殺害スル者アラハ亦タ必ラス其償ヲ

爲サヽルヘカラス之レ刑罰ヲ設クルノ目的ナリト論スル者ナリ

其七 契約主義トハ社會ノ一人トナリタル以上ハ其社會ヲ保持スルニ必要ナル刑法ニ服從スルコトヲ約シタル者ナレハ之レニ背ク者ヲ罰スルハ其約ヲ履行スルナリト論スル者ナリ

夫レ斯ノ如ク諸說各相同シカラスト雖モ要スルニ刑罰ノ目的ハ同一ノ行爲ヲ將來ニ豫遏スルニアリ而シテ我刑法ハ此目的ヲ達スル爲メ左ノ方法ヲ以テセリ

有期徒刑、懲役、輕重禁錮、罰金、拘留、監視等ノ刑ヲ科シテ犯罪者ヲ懲戒ス

死刑其他ノ宣告ヲ公ケニシテ之ヲ公衆ニ示シ以テ社會ニ畏懼ノ念ヲ生セシメ社會ヲシテ再ヒ同一ノ行爲ナカラシム

死刑、終身刑ヲ科シテ犯罪者ヲ社會ヨリ擯斥シ以テ同一ノ罪犯ヲ再ヒ

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第6号(1886年10月23日発行)

社會ニ現出セサラシム

以上三種ニ之ヲ分ツト雖モ要スルニ本人ヲ懲戒シ社會ヲシテ畏懼セシメ犯罪者ヲ除斥スル等一トシテ將來ニ於テ犯罪ノ處爲ヲ豫遏スルニ外ナラス

第三回

刑罰ノ權衡輕重ノ程度

Measure of Punishment.

(第三) 刑罰ノ權衡輕重ノ程度

同一樣ノ犯罪ニ付テモ刑罰ヲ科スルニ輕重アリ乃チ或所爲ニハ徒流刑ノ如キ重キ刑ヲ科シ又或所爲ニハ罰金科料ノ如キ輕キ罰ヲ加ヘラル此ノ如キ刑罰ノ權衡ニ輕重ノ差アルハ抑何等ノ主意ニヨルモノナル乎今夕講義ノ問題ハ即チ是ナリ

凡刑法ナルモノハ唯之ヲ制定頒布シタレハトテ效果アルモノニアラス刑法ヲシテ眞ノ效驗ヲ現ハサシムルニハ其輕重ノ程度ヲ得セシム

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第6号(1886年10月23日発行)

ルニ在リ例ヘハ魯西亞ニ起ル虚無黨ヲ罰スルニ死ヲ以テスル如キハ敢テ苦痛ヲ感セス却テ其身ノ榮譽ナリトナスナラン此ノ如ク死ヲモ猶恐レサルノ徒ニ斯刑ヲ科ス何ノ效力之レアラン近來日本ノ或ル地方ニ國事犯ヲ企テヽ遂ニ死刑ニ處セラレシ壯士中ニモ或ハ死ヲ以テ潔トスル者モアルナラン果シテ然ランニハ殘酷ノ死刑又々何ノ益アラン乃チ此ノ如キ士等ニ至テハ其最モ苦シキ刑ト云フハ終身徒刑ノ如キ却テ其痛痒ヲ感スル者ナリ蓋シ勞役ニ堪ヘ難クシテ眞心悔悟スルコトアルヘシ又タ多分ノ財産ヲ有スル者ニ罰金科料ノ刑ヲ加フル如キ其效驗實ニ薄キ者ナリ故ニ肉體ノ刑ノ如ク苦痛ヲ覺ヘシムルモノ却テ效驗アル者トス然ルニ性命ヲ重スルノ士或ハ貧者ノ如キ之ヲ感スルヤ非常ニ大ナルヘシ故ニ將來ヲ豫遏スルノ目的ヲ充分ニ達セント欲セハ刑罰ノ權衡ヲ能クスルニアリ刑罰ノ權衡ヲ能クスルハ各人ニ付テ刑ヲ

科スルニ如カス他言スレハ人民ノ階級ヲ設ケ其階級ニ應シテ各刑罰ヲ置キ制裁ヲ科ス可キナリ然ルニ各其所爲ト人々ニ付キ特別ニ其權衡ヲ定ムルハ望ム可クシテ行フ可カラス唯タ充分ニ其目的ヲ達セント欲セハ裁判官ニ最上ノ權ヲ與ヘテ之レヲ定ムルニアリ日本刑法ニ付テ見レハ多少此等ノ考察ヲ廻ラシ各條每ニ最短期ト最長期トヲ定メ何圓以上何圓以下或ハ何年以上何年以下ト云ヘル區域ヲ設ケ其間ニ於テ裁判官ニ自由自在ノ權利ヲ與ヘ以テ各人ノ性質模樣ヲ察シ豫戒ノ主旨ヲ補成セシム

此ノ如ク所爲ノ種類ニ由リテ刑罰ノ權衡輕重ヲ定メタルモノヽ標準トナル可キモノハ豫メ之ヲ定メ置カサル可カラス何トナレハ立法官ノ最長短期ヲ定メタル主義ニ由リテ裁判官ハ其限內ニ於テ權衡輕重ヲ定ムルモノナレハナリ乃チ其特別ノ所爲ハ何處ニ當ルヤ否ハ裁判官

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第6号(1886年10月23日発行)

刑罰ノ輕重ヲ定ムルニ標準トナル可キモノヽ第一

ノ智愚賢否ニ由テ或ハ適スルコトアリ或ハ適セサルコトアルモノトス此ノ如キ次第ナルヲ以テ先ツ第一ニ我刑法上刑罰ノ權衡輕重ヲ定メタルコトヲ窮知スルヲ要ス今刑罰ノ輕重ヲ定ムルニ標準トナル可キモノヲ左ニ列叙セン

第一　若シ夫レ犯罪ノ目的非常ノ大害ヲ社會ニ及ホスニアルトキハ其犯罪ヲ豫防スル一層稠密ナラサル可カラス合ニ未遂中殺ニ思ヒ中殺ニ思ヒ中殺ニ思ヒ

刑罰ノ輕重ヲ定ムルニ標準トナルモノヽ第二

第二　犯罪ヨリ生スル惡果ノ確定スルモノハ其確定ノ度ニ從テ刑罰ヲ加重セサル可カラス

此ノ如キ主義ニテ定メタルハ歐打創傷ノ如キ然リ卽チ其結果ニ於テ一日ノ傷ヲナスモノト十日ノ傷ヲナスモノト二十、三十日間ノ傷ヲ爲ス者ト各其輕重ノ度ヲ量リテ刑罰ヲ科スルモノトス又タ既遂犯ヲ罰スルハ未遂犯ヲ罰スルヨリ重キカ如シ是レ未遂犯ニアリテハ其實行スル前ニ悔悟スルコトモアレハナリ例ヘハ殺人罪ノ塲合ニ未遂犯ト云ヒ既遂犯ト云ヒ同シク刀ヲ下ケタルモノナリト雖モ未遂犯ノ塲合ニ於テハ人ヲ殺サントスルノ惡念中途ニ思ヒ止リテ刀ヲ下ニ降シ既遂犯ノ塲合ニ於テハ人ヲ殺サントスルノ惡念增長シ人ヲ殺スタメ刀ヲ下ニ降シタルモノナリ故ニ刀ヲ降シタルノ所爲尙一ナルモ其惡結果ノ起ルト起ラサルトニ由テ或ハ罰シ或ハ罰セサルコトアリ

刑罰ノ輕重ヲ定ムルニ標準トナル可キモノ、第三

第三　忿怒ノ情ノ有無、年齢、教育ノ度、犯罪者ノ資格、性質、犯罪ノ度數、犯罪ノ時、犯罪ノ場所、犯罪者ノ交際スル社會等ノ如キ種々ノ形狀ニ從ヒ同一ノ行爲ト雖モ刑罰ニ輕重ヲ分タサル可カラス

(一)憤怒ノ情ノ有無トハ歐打創傷セラレタルトキハ憤怒ノ餘リ直ク之ヲ打チ返ス如キ或ハ又妻ノ姦通セラルヽニ當テ見ルニ忍ヒス直チニ其人ヲ害セシ如キハ最初ヨリ顧慮熟考シテ爲セシ場合トハ刑ニ輕重アリ再言スレハ其人ノ罪ヲ犯スヤ不圖他人ノ所爲ニ激動セラレ前後ノ思慮ナキモノト精神ノ靜止セル時ニ犯セシモノトハ其適施スル刑ニ於テ輕重ノ差アルモノトス(二)年齢ニ付テモ未丁年者ト丁年者トハ別ニ刑ヲ適施シ(三)又教育ノ度ニ至テハ此ニ著シキ例ハナケレトモ然カモ能ク之ヲ知テ其區別ヲ立テサル可カラス若シ裁判官タルモノ被告人ヲ尋問スルニハ先ツ當人教育ノ有無ヲ問フ而シテ該被告人幼少ヨリ多

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第6号(1886年10月23日発行)

少ノ教育ヲ受ケ事ノ是非善惡ヲ辨シ居ルモノナルトキハ其犯罪ハ必ス思慮ヲ廻ラシタルモノナリ之ニ反シテ漁獵夫ノ如キ目ニ一丁字ヲ視ル能ハス耳ニ一善言ヲ聽クコトナキ者ノ如キハ其犯罪ニ由テ害ヲ及ホス所大ナルモ又恕ス可キモノアリ故ニ前者ハ之ヲ重ク罰シ後者ハ之ヲ輕クス(四)次ニ犯罪者ノ資格モ同樣普通ノ平人ヨリ官吏ノ方其刑ヲ重クス我刑法第二百五條ニ於テ官吏其管掌ニ係ル文書ヲ僞造シ又ハ增減變換シテ行使シタルモノハ通常人ノ刑ニ一等ヲ加フト云フノ一例ヲ見テモ明カナリ子ハ親ヲ殺シタル如キハ其情殊ニ惡ム可キモノナルヲ以テ其刑モ從テ重キヲ加ヘサルヲ得ス然ルニ子ハ親ノ財產ヲ竊取スル如キ場合ニ其刑ナキモ亦タ此犯罪者ノ資格ニ由ルモノトス(五)次ニ犯罪者ノ性質ニ就テモ多少其程度ヲ異ニセサル可カラス則チ正直ナル人ナルトキハ之ヲ輕クシ狡猾ナル者ナルトキハ之ヲ重クスルノ

類是ナリ(六)次ニ罪ヲ犯スコト再三再四ト其度ヲ重ヌル者ハ其刑ヲ重クシ否ラサルモノハ之ヲ輕クス乃チ犯罪ノ度數ニ從テ刑ノ輕重ヲ定ム(七)次ニ犯罪ノ時ニ付テモ輕重ノ差ヲ定メサル可カラス乃チ犯罪者晝夜ノ間ニ在テハ大ニ其情ヲ異ニスルモノニシテ例ヘハ夜分ハ罪ヲ犯シ易クシテ之ヲ防クニ難ク晝間ハ罪ヲ犯シ難クシテ之ヲ防クニ易キヲ以テ前者ハ其刑ヲ重クシ後者ハ之ヲ輕クセサル可カラス(八)又犯罪ノ場所ニ付テモ輕重ナカル可カラス(九)次ニ犯罪者ノ交際スル社會ニ於テモ其輕重ヲ定メサル可カラス例ヘハ貴族ノ罪ヲ犯シタルトキハ其位置重キヲ以テ從テ重刑ニ處スル如キ然リ

其他種々皆ナ其程度ヲ定ムルニ付テ大ニ必要アルモニノシテ犯罪者ノ身分職業等ハ必ス之レヲ記セサル可カラス之ヲ記スルコトヲ怠テ裁判ヲ言渡ストキハ或ハ無效ニ歸スルコトアリ則チ從來其人ノ品行ヲ記スル

刑罰ノ輕重ヲ定ムルニ標準トナル可キモノヽ第四

ハ一体ノ風ナリトス記セスシテ無效ニ屬スル場合ハ犯罪ノ時、犯罪ノ場所、被告人ノ職業等ナリトス

第四　第一第二第三ニ於テハ同等ノ犯罪ト認ム可キ行爲ト雖モ社會ノ安寧幸福ヲ害スル最モ大ナルモノハ最モ刑罰ヲ嚴酷ニセサル可カラス其安寧幸福ヲ害スルノ度均シキモノト雖モ容易ニシテ犯スコトヲ得ル性質ノ行爲ハ之ヲ豫防スル一層嚴密ナルヲ要ス從テ刑罰ヲ加重セサル可カラス

譬ヘハ人ノ煙草入ヲ盜ムカ如キハ牛馬ヲ盜ミ石燈籠ヲ盜ム者ヨリ罰ヲ重クセサル可カラス必竟スルトコロ安寧幸福ヲ害スル大ナルモノハ其刑ヲ重クシ又大害アル犯罪モ容易ク犯シ得サル性質ノモノハ其刑ヲ輕クス是レ刑罪ノ目的ハ犯罪ヲ將來ニ防遏スルニアレハナリ

第五　刑罰加重ナルモノ及ヒ曖昧ナル理由ヲ以テ程度ヲ失スルモノハ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第6号(1886年10月23日発行)

刑罰ノ輕重ヲ定ムルニ標準トナル可キモノヽ第五

刑罰ノ目的ヲ達スルニ其效力ヲ有セス却テ社會ヲシテ殘忍ノ性質ヲ喚記セシムルニ至ルヘシ

第四回

此第五ニ屬スルモノハ刑罰ノ權衡輕重ヲ定ムルニ於テハ必要ト云フ程ノコトナケレトモ聊カ心得置ク可キコトナルヲ以テ此ニ講述ス前ノ第一、二、三、四ノ塲合ハ日本刑法ニ於テ最モ必要トスル所ニシテ當第五ノ塲合ハ唯タ立法官司法官トナルモノヽ注意ス可キ事柄ト云フニ外ナラス凡刑罰ナルモノハ何等ニ關セス將來同一樣ノ犯罪ヲ未來ニ防遏セシムルヲ以テ目的トス然ル上ハ犯罪者ニ科スル刑罰ノ程度モ其權衡ヲ得サル可カラス僅カ路傍ニ小便スル者モ猶ホ禁錮ニ處スル如キアラハ其苛酷ノ致ス處或ハ犯罪者ヲ將來ニ防クコトヲ得ルモノヽ如クナレトモ其實然ラス此ノ如キ輕キ罪ニ重キ刑ヲ科スルトキハ社會人

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第6号(1886年10月23日発行)

民ハ却テ犯罪者ヲ惡ムノ念ヲ絶チ愛憐ノ情ヲ起シ嚴刑モ其效ヲ失スルニ至ル維新前或ル藩ノ制ニ賭博ヲナス者ハ罰金ニ處セラレ再犯者ハ之ヲ鞭打チ三犯スル者ハ斬罪ニ處セラレタリ此ノ如キ嚴刑ヲ加ヘタレハ藩下人民一人トシテ賭博スル者ナカル可キニ左ハナクシテ却テ其犯者ノ數ヲ增シ徒ヲ結ヒ黨ヲ設ケ衆人爲メニ之ヲ蔽ヒ三犯ニ由リテ斬罪ニ處セラレタル者アルトキハ其ノ公衆ハ爲メニ塚ヲ建テ懇ニ之レヲ祭リタリ之ヲ以テ三犯ニテ斬セラルヽハ却テ身ノ榮譽トナスニ至レリ是ニ依テ見ルモ嚴刑必スシモ實效ヲ奏スルニ至ラス左レハトテ餘リ寛ナル刑ヲ科スルモ又タ益ナシ詐欺取財及ヒ窃盗犯ノ如キ多クハ輕罪ナルヲ以テ奸智ニ長ケタル不良ノ徒ハ若干圓ノ金ヲ窃ミテ之ヲ隱蔽シ若シ罪狀ノ發覺スルコトアルトキハ金ヲ出サスシテ刑ヲ受ケ刑期四年内ニシテ窃ム所ノ金數萬圓ナルトキハ一ケ月一千有餘圓ノ得

分トナリ勅任官ニ優ル月給ナリト云フ心算ヨリシテ罪ヲ犯ス者其踵ヲ接スルニ至ラン故ニ刑罰其輕キヲ失スルモ亦弊害ヲ生スルモノナリ我カ刑法詐欺取財及窃盗犯ノ如キ刑ノ最短最重期ヲ充分廣カラシメ頗フル豫防ヲ嚴ニスルカ故ニ此憂ナカルヘシ必竟スルニ刑罰ノ目的ヲ達セントスルニハ輕重ノ度ヲ得サル可カラス且ツ其刑ノ曖昧ニ屬スルコトハ世人ヲシテ最モ不利ヲ與フルモノナリ又明文良法アルモ之ヲ施行スル方法ニ其當ヲ得サルトキハ罪人モ刑ヲ免レ無罪人モ罰ヲ受クルニ至ル兎角人ハ僥倖ヲ企ツルモノニシテ罪ヲ犯シテ萬一、刑ヲ免レンコトヲ欲シ不本意ノ所爲ヲ行フニ至ル況ンヤ犯罪者ヲ罰セサルニ於テハ益〻刑罰ノ目的ヲ失スルニ至ル故ニ刑法ハ一言ニシテ明瞭ナル詞ヲ用ヘ裁判官ハ其明條ニ由リテ適當ナル刑ヲ科スルヲ要ス彼ノ俗人社會ニ行ハルヽ成ル可クトカ不都合トカ云フ文字ノ如キ其

區域判然セス其程度明瞭ナラサル字句ヲ用ユルハ最モ忌ム可キモノナリ又タ公安ヲ害スルト云フ文字ノ如キモ同シク其程度定ラサルモノナリ例ヘハ其人ノ口ニ言フタルコトハ敢テ惡意アリシニハアラサルニ不敬犯ヲ以テ問ヒ侮辱罪ヲ以テ論スル如キハ其效ナキモノトス故ニ刑罰ノ目的ヲ達スルニハ寛ナラス嚴ナラス常ニ公平ナルヲ要ス而シテ其惡行アレハ必ラス之ヲ罰シ惡行ナケレハ必ラス之ヲ罰セス右ノ如クシテ初メテ人民ノ安寧ヲ保ツコトヲ得如何ニ刑法治罪法明美ナリト雖モ之ヲ運用スル人ニ學識熟練ノ士ナケレハ好結果ヲ現ハスコト能ハサル所以ナリ

犯罪者ノ資格

第二章　犯罪者ノ資格

以上述ル所ハ刑法ナル文字ノ義解ヲナシ刑法上ヨリ生スル權利義務ノ性質、之ニ違背スルトキハ科スヘキ制裁卽チ刑罰等ノ事ヲ說キタリ而

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第6号(1886年10月23日発行)

シテ右ノ證明ハ單ニ刑法ナル字義ノ含蓄スル要素ヲ明ニシタルニ止マリ刑法ノ實体ニアラス所謂刑法ナル文字ノ「インテンション」即チ内積ニシテ刑法ノ實体ニアラサルナリ故ニ此等ノコトハ法學通論ニ於テ論セラル可シト思料シ故サト省カントシタレトモ諸君カ本題ヲ講窮スル一助トモナランカト思ヒ老婆心ヲ以テ其大要ヲ述ヘタルナリ偖テ是ヨリ刑法ノ實体ニ付キ之ヲ講述セン而シテ之ヲ講述スルニ當リ諸君ノ特ニ注意スヘキハ前既ニ述ヘタルカ如ク凡刑法ヲ設ケ刑罰ヲ科スルハ他ナラス將來ニ同樣ナル所爲ナカラシムルノ目的ニアリ去レハ刑法ハ其目的ヲ達スルコト能ハサル場合ハ之ヲ罰セサル者トス日本刑法ニ於テ犯罪者ノ資格即チ刑法上ノ責任ヲ定ムルモ亦タ此主義ニ外ナラス凡犯罪ノ所爲ヲ作スモノ之ヲ爲スノ意思ナキニ之ヲ禁セント欲スルモ禁スル能ハス之ヲ戒シメント欲スルモ戒ムルコト能ハス故ニ犯罪

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第6号(1886年10月23日発行)

行爲ト意思ト併存セサル塲合

ノ所爲ヲナスノ意ナキ時又ハ其意自由ニ出テサルトキハ刑法ニ於テ之ヲ罰セス卽チ犯罪意思ト犯罪行爲ト併存スル塲合ニノミ此刑法ヲ適用ス可キコトトセリ今行爲ト意思ト併存セサル塲合ヲ大別シテ三トス

第一　原來犯罪所爲ヲナシタルモノ不能力者タル塲合

第二　能力者ナリト雖モ其犯罪所爲ニ付キ善惡ノ判斷力ヲ喚起セサリシ塲合

第三　能力者ニシテ若カモ其犯罪ヲナスノ際ニ其能力ヲ喚起シタルモ外物ノ刺衝ニヨリ止ヲ得ス已レノ意ニ反シテ其行爲ヲナシタル塲合

右ノ三塲合ハ其何レナルニカヽハラス必竟其人カ其所爲ニ付キ責任ヲ有セサル塲合ナリ是等ハ之ヲ罰スルモ刑法ノ目的ヲ達スルコト能ハス行爲者之ヲ將來ニ愼マントスルモ素モリ己レノ意ニアラサルヲ以テ愼ミ戒ムルコトヲ得サルナリ我刑法ニ於テハ其第四章ニ於テ是等ノ

塲合ヲ規定シタリ以下順次之ヲ講述セン

第一　原來犯罪所爲ヲ爲スモノ不能力ノ塲合

其一　未丁年者ヲ論ス

未丁年者

日本刑法ハ未丁年者ノコトニ關シテハ第七十九條、八十條、八十一條ニ記載セリ英國現行ノ刑法ハ何歳以下ノ者ヲ以テ未丁年トナスト云ヘルカ如キ法文ナク唯タ判決例ニヨリ刑法上責任ナキ者ヲ定ムルノミナレトモ我刑法ニ於テハ明カニ第七十九條ニ於テ之ヲ明定セリ其條文ニ曰「罪ヲ犯ストキ十二歳ニ滿タサル者ハ其罪ヲ論セス但シ滿八歳以上ノ者ハ情狀ニヨリ滿十六歳ニ過キサル時間之ヲ懲治監ニ留置スルコトヲ得」ト卽チ十二歳以下ノ者ハ其罪ヲ論セサルコト知ルヘシ唯タ滿八歳以上ノ者ハ情狀ニヨリ滿十六歳ニ過キサル時間懲治監ニ留置スルコトアレトモ其ハ單ニ懲治スルニ止マリ重罪輕罪違警罪ヲ孰レニモ屬スル

モノニアラサレハ之ヲ以テ刑罰ト云フ可カラサルナリ第八十條ニ曰「罪ヲ犯ストキ滿十二歳以上十六歳ニ滿タサル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案シ辨別ナクシテ犯シタルトキハ其罪ヲ論セス但情狀ニ由リ滿二十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得若シ辨別アリテ犯シタルトキハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス」ト故ニ十二歳ヨリ十六歳マテノ者ハ辨別力ノ有無ヲ審査シテ或ハ之ヲ罰シ或ハ之ヲ罰セサルモノトス之ヲ審案スル者ハ裁判官ニ在リ滿十六歳以上二十歳ニ滿タサルモノハ刑法上ノ責任アリト定ム然シ多少其能力ニ於テ發達セサル所アルヲ以テ殊更ニ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減スルコトヽセリ次ハ第八十一條ナリ此條ヲ講スルニハ先ツ各國刑法ノ表ヲ取テ之ヲ示サント欲スレトモ時間ニ切迫セシヲ以テ次回ニ讓リ今我刑法ノ未丁年者ニ關スル點ニ付キ一目瞭然ナラシム

ル爲メ左ニ表ヲ掲ケテ之ヲ示サン

- 未丁年（滿二十年以下）
  - （七九條）十二歲以下 — 無罪　但滿十六歲ニ過キサル間懲治場ニ留置スルコトヲ得
  - （八〇條）十二歲以上十六歲以下
    - 重罪
    - 輕罪
      - 其處爲是非ヲ辨別セサルトキ — 無罪
      - 其處爲是非ヲ辨別スルトキ — 有罪　但二等減
  - （八三條）違警罪 — 有罪　但一等減
  - （八一條）十六歲以上二十歲以下 — 有罪
    - 重罪
    - 輕罪
    - 一等減
  - （八三條）違警罪 — 減等ナシ

第五回

前回ノ講義ニ於テ未丁年者ノ表ヲ掲ケシヲ以テ諸君ハ既ニ刑法上未丁年者ノコトヲ了知セラレシナランカ必竟未丁年者ノコトヲ前表ノ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第10号(1886年11月20日発行)

如ク造リシハ日本刑法ノ他國ニ比シテ上出來ナルコトヲ賞賛セルモノニシテ尚社會ノ進歩スルニ於テハ他ノ英國及ヒ羅馬ニ於テハ果シテ如何ナルカヲ參考スルヲ必要トスヘシ

蓋英國刑法ハ不文法ナルカ故ニ年齢ニ由リテ責任ノ有無ヲ定メス善惡判斷ノ能力ナキ者ハ刑法上ノ責任ナシト云ヘル道理ニ基キ未丁年者ニ刑法上ノ責任ヲ負ハセサルカ故ニ寧ロ年齢ノ如何ヨリハ能力ニ由リテ之カ責任ノ有無ヲ定ムルモノト云フヘシ然レトモ今種々ノ判決例ニ據レハ左表ノ如キナリ

- 十二年以下 無罪
  - 輕罪 常ニ無罪
  - 重罪 時宜ニヨリ有罪（即能力ヲ具フルコト明カナルトキ）
- 未丁年
  - 十二年以上十四年以下 先ツ無罪
    - 輕罪 或ル輕罪ヲ除クノ外裁判官ニ於テ能力アリト認ムルトキハ有罪
    - 重罪

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第10号(1886年11月20日発行)

十四年以上二十年以下 有罪 但シ例外ナリ

英國刑法ニテハ未丁年者爲スヘキ義務ヲ爲サヽル場合ニ於テハ之ヲ罰セサルナリ何トナレハ未丁年者ハ固ヨリ爲ス可キノ義務ヲ負ハセ得ヘキモノナラサレハナリ

然レトモ爲スヘカラサル義務ニ背キタル時ハ之ニ異リ例ヘハ人ヲ殺スヘカラサル義務ヲ破リタル時ノ如ク又架橋ノ義務ヲ破リタル時ノ如キ之ヲ罰セサルモノトス故ニ未丁年者ハ犯罪人ヲ隱庇スルト雖トモ通常之ヲ罰セス蓋シ之ヲ政府ニ告發スルノ義務ナキヲ以テナリ只其故意ヲ以テ之ヲ爲シタル場合ヲ問フモノヽ如シ何トナレハ此場合ニ於テハ爲スヘカラサルコトヲ爲シタルヲ以テナリ此區別ハ實地裁判上ニ於テ甚タ必要ナルモノニシテ未丁年者ハ假令其情ヲ知ルト雖モ或ル所爲ナキ以上ハ之ヲ論セス但大人ニ至リテハ既ニ其情ヲ知テ

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第10号(1886年11月20日発行)

之ヲ爲ストキハ之ヲ罰スルカ故ニ此區別ヲ知ラサルヘカラス

又羅馬法ノ區別ハ更ニ新奇ニ出ツルカ如ク日本刑法モ亦多少英國法羅馬法ヲ折衷シタルモノヽ如シ左ニ羅馬法ノ區別ヲ圖解セン

未丁年
- 第一期 滿七年以下 無罪
- 第二期 滿七年以上 十四年以下
  - 前期 滿七年以上 十年六ケ月以下 無罪
  - 後期 十年六ケ月以上 滿十四年以下 裁判官ノ認定ニ本ツク
- 第三期

抑モ未丁年者ヲシテ刑法上ノ責任ヲ負ハシムルコト能ハサルハ單ニ其能力ナキニ由ルヲ以テ社會ノ進歩スルニ從ヘ未丁年者ト云フモノヲ設ケサルモ不都合ナク只能力者ト不能力者トヲ區別スレハ足レリ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第10号(1886年11月20日発行)

卽チ能力アレハ之ヲ罰シ能力ナケレハ之ヲ罰セサルカ故ナリ

然レトモ裁判官ニシテ智識充分ナラサルトキハ其間ニ細密ナル區別ヲ置クヲ以テ適當トス併シナカラ實際刑ノ目的ヲ達スルカ爲メニ未丁年者ヲ罰セントセハ詐欺取財ノ如キハ宜シク之ヲ問フ可キナリ或國ノ刑法ニハ十三歳ノ者ニハ强姦ノ罪ヲ負ハセスト雖トモ是又實際能ハサル事ナルヲ以テ其犯罪者ヲ罰スルモ亦可ナリ又寒暖ノ度ニ由リ本邦ノ如キ二十歳マテハ一等ヲ減スル抔云フ如キハ其適否甚タ不慥ナルモノナリ

今或ル統計家ノ說ヲ聞クニ曰ク刑罰表ヲ見レハ未丁年者ニ犯罪者多シト是レ或ハ寬刑ノ媒介ヲ爲スナキヲ知ランヤ然レトモ未丁年者ヲ撤去スルカ如キハ賢明ナル判官ヲ得タル後ニ非サレハ到底望ムヘカラサルナリ

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第10号(1886年11月20日発行)

白痴、瘋癲者

其二　白痴、瘋癲者ヲ論ス

凡刑罰ノ目的ヲ達スル爲メニハ其所爲ノ結果ヲ知ル者ニアラサレハ之ヲ罰スルモ其効ナキモノナレハ白痴、瘋癲瘖啞者ノ如キハ之ヲ罰セス日本ニ於テモ亦法律上白痴及白痴ト認ムル所ノ瘖啞者ノ如キハ之ヲ罰セス卽チ我刑法第七十八條ハ瘋癲ニ關スルモノナリ其條ニ曰ク罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因リテ是非ヲ辨別セサル者ハ其罪ヲ論セスト又第八十二條ニ曰ク瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニヨリ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得ルト瘋癲ナルモノハ畢竟普通ノ能力アル人カ或ル病氣又ハ或ル原由ヨリ知覺精神ノ不充分ナルニ至リシモノニシテ白痴ト生來ノ無知覺者ニシテ俗ノ所謂馬鹿ナリ又瘖啞者トハ所謂つんぼニシテ意思ヲ通スルコト能ハサルモノヲ云フ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第10号(1886年11月20日発行)

瘋癲者ノ種類

第六回

前回ニハ瘋癲白痴ノ如何ナルモノナルコトヲ述ヘシカ其瘋癲ナルモノニ數種類アリ

第一　生涯瘋癲ノ者アリ又或ル時間ニ限リ狂癲スル者アリ

第二　精神錯亂セスシテ所謂白痴ナル者アリ生レナカラニシテ能力發達セス善惡ノ判斷ヲ知ラサル者アリ

第三　精神ノ機關不足ノミナラス五感不足ノ爲メニ判斷ノ能力ナキ者アリ

右第一種ノ常ノ瘋癲者トハ何時モ刑法ノ責任ナキモノ也

第二種ノ者ハ毎朝夕トカ風雨又ハ赤色ノモノヲ見テ直チニ瘋癲ト爲ル者ナリ而シテ其間ニ働キシ事柄ハ常ニ責任ナキモノトス第三種ハ甚タ困難ニシテ唯一部分ニ於テ瘋癲ト爲ルヲ以テ之ヲ決定セル容易

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第10号(1886年11月20日発行)

ノコトニアラス卽チ金錢上ノ事ニ關シ又婦人ニ對スル事ニ於テ瘋癲トナル者アリ然シ此ノ如キ者ト雖モ普通ハ刑法ノ責任アルモノト決ス但其時病ノ存スル時ニ働キシコトニ付テハ責任ヲ免カルヽモノトス

瘋癲者ヲ論ス

偖瘋癲ハ之ヲ一見スレハ容易ニ識別スルヲ得ルカ如シト雖モ事實ニ付キ吟味スル時ハ實ニ識別スルニ難ク裁判醫學上ヨリ云フモ其瘋癲ト否ヲ決スルハ容易ノ業ニアラサルナリ頃日横濱裁判所ニ見ヘシ近例ナルカ窃盗ニ狂スル者アリト云フニ付テ醫師ヲシテ診斷セシメタルニ全ク盗ニ狂セシ者ナリト云フ而シテ其事實ノ判然セシコトヽ云フハ或ル所ノ破レ疊ヲ窃取セシト云フ事柄ヨリシテ推測ヲナシ通常ノ盗賊ナレハ僅ノ利益スラナキ破疊ヲ窃ム如キ拙ナル事ハナサス窃取スルナレハ今少シ金ニナル物品ヲ取リタリシニ左ハナキハ是レ全ク

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第10号(1886年11月20日発行)

盜ニ狂セシ者ナリトノ裁判ニ由リテ刑ヲ免レタリ是レ其著例ナリトス色ニ狂スル者ノ如キ亦是ナリ

若シ又罪ヲ犯ス時知覺精神ヲ備フルモ其前後ニ於テ錯亂シタル者ハ刑法上其責アリヤ否ト謂フニ斯ノ如キハ其有罪ナルコト勿論ナレトモ此ノ如キ者ニハ刑ヲ科セサルヲ以テ普通ノ例ナリトス何トナレハ瘋癲ナルモノハ恰モ其人ノ精神カ身體ニ舍トラサルト一般ニシテ此際裁判ヲ下ストキハ是レ被告人ヲ欠席ニテ裁判スルニ其理異ナルコトナシ故ヲ以テ其裁判ヲ中止ス若シ言渡ノ後ニ於テ瘋癲ト爲リシ者ハ其執行ヲ停止ス何トナレハ凡瘋癲ナル者ハ我身ヲ留守ニセシニ同シ若シモ慥ナル精神ヲ以テ法庭ニ出頭シタランニハ充分ノ辯論モナシ證明ヲモ爲スコトナラント雖モ不在ノ者ハ對審スルコトモ得サレハ又證人ヲ呼出シテ其眞否ヲ證スルコトヲモ得サル道理ニテ既ニ我

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第10号(1886年11月20日発行)

白痴者ヲ論ス

治罪法ニ於テモ故ナク欠席裁判ヲ行フヲ得サルモノトハセリ故ニ犯罪者瘋癲ニ罹リシ以後ハ其裁判ヲ中止シ平癒ノ時ヲ待ツヘキナリ

次ニ白痴ノコトニ付テ講述センカ凡ソ白痴ハ如何ナル度ニマテ達スレハ刑法上ノ責任ヲ免カルヽヤ否ハ事實上ノ問題ニシテ頗ル容易ノコトニアラスト雖モ要スルニ此等ハ裁判官ノ意中ニアリテ其適否ヲ定ム但無責任ヲ以テ論スル者ハ善惡ヲ判斷スル能力ナキ程ノ白痴ナラサル可カラス又白痴ノ中ニハ法律ノ推測ニ由リテ認ムルモノアリ即チ刑法上ニ於テ瘖啞者ヲシテ刑罰ノ責ナキトスルモ此意ナリ隨分世間ニハ聾ニシテ口ニ言フコト能ハスシテモ能ク善惡ノ判斷ヲナスコトヲ得ル者アリ此者等ハ目ヲ以テ人ノ心ニ悟ラシムル者ナルヲ以テ必竟ハ辨智力ナキヲ以テ其ノ責ヲ免カレシムルモノナリ但廢疾者ノ如キハ刑ヲ適用シテ假借スル所ナキナリ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第10号(1886年11月20日発行)

醉狂人ヲ論ス

次ニ醉狂人ノ何物タルコトヲ論センニ是モ一種ノ瘋癲白痴ニ過キス然レトモ其醉狂人ハ一名有心故造ノ瘋癲ト稱シ自ラ好ンテ瘋癲ト爲リタルモノト云フテ不可ナキナリ何トナレハ飲酒スレハ其醉フコトハ知レ切ツタルモノナルヲ以テナリ醉狂人ヲシテ刑法ノ無責任トスルヤ否ノ點ニ付テハ大ニ議論ノアル事ニシテ諸君モ契約法ニ於テ醉狂人ノ取結ヒシ契約ノ如何ナル結果ヲ生スルモノナリヤ抔ノコトヲ研窮セラレタルナランカ若シ漫リニ醉狂者ノ犯罪ハ一般刑罰ヲ免ルヽモノトセハ凡ソ罪ヲ犯サント欲スル者ハ必ス皆酒ヲ飲ミテ罪ヲ犯スニ至ルヘク又悉ク之ヲ有罪トスルトキハ其犯罪ヲ他日再ヒ起ラサラシメントスルモ犯時其所爲ノ結果ヲ知ラスシテ爲シタル者故ニ之ヲ愼ムノ規矩トナスニ足ラサル場合卽チ刑法ノ目的ニ達スルコト能ハサル場合ナシトセス況ンヤ酒ハ國ニヨリ大ニ衛生上必

英吉利法律講義録 1886(明治19年) 第1年級第10号(1886年11月20日発行)

要品トナルコトアリ又或ル國ニアリテハ衛生上有害物トスルコトアリ譬ヘハ我國内ト雖モ北海道ニ於テハ衛生上必要トシ飲ム可キ分量ノ酒ハ四國九州ニアリテハ頗ル有害ナル分量トスルコトアリ此故ニ各國ノ刑法ニ於テ其責任ニ大差アリ瑞典丁抹等ノ寒國ニ於テハ酌量減輕ノ條件トスレトモ西班牙、伊大利等ニ於テハ加重ノ條件トセリ殊ニ希臘ノ法律ニ於テハ其刑ヲ加重ストアリ羅馬法ニ於テハ酌量減輕ノ參考事實トシ英國法ニ於テハ犯罪責任ヲ脱スル證據トシテ提供スルヲ許セリ蓋寒國ニ於テハ酌量減輕ノ條件トシ氣候其度ヲ得タル國ニ於テハ酌量減輕ノ參考トシ猶熱帶ニ近キ諸國ニ於テハ加重ノ條件トセリ是ニ依リテ之ヲ觀レハ氣候ニヨリ大ニ法律ノ適用ヲ異ニスルヲ知ルヘシ我國ニ於テハ極メテ泥醉ナルモノハ第七十八條ニ據リ其責ヲ免レシメ稍泥醉スルモノハ之ヲ以テ酌量減輕ノ參考事實トシ若シ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第10号(1886年11月20日発行)

又故ラニ醉テ犯シタル者ハ刑期内ニ於テ少シク重キ場合ニ擬律スルモ可ナラン而シテ又擬律ニ於テハ國ノ寒暖ヲ參考シ其刑期ノ範圍内ニ於テ加減スルモ或ハ可ナラン乎

先刻モ述ル如ク醉狂人ニ就テハ必スシモ刑法ノ責ヲ免カルヽ者ニアラス殊ニ違警罪ニ付テハ飲酒スルコトノミニテ既ニ罪トスル所アリ去リナカラ既ニ醉フタル者ヲ罰スルモ法律ノ目的トスル他日ノ懲戒トナルコトヲ得サレハ結局本心ナキ證據アルトキハ事宜ニヨリ之ヲ以テ無罪ノ辯護ノ材料ト爲スモ可ナランカ去レトモ通常醉狂ヲ以テ辯護ノ材料トスルハ額ル因難ナルモノト云フヘシ

以上縷述セル所ハ全体ノ精神カ善惡ヲ判斷スルノ能力ナキ場合ナリシカ次ニ說クモノハ善惡ヲ判斷スル能力ハ充分之ヲ有スト雖モ犯罪ヲ爲スノ際能力ヲ喚起セサリシ場合ナリ之ヲ事實ノ錯誤ト云フ我國

不意ノ出來事

ニ於テハ其罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ其罪ヲ論セスト云フ刑法第七十七條ニ該當スルモノナリ又罪ヲ犯スノ意ナキモノハ其罪ヲ論セスト云フ法規皆是ナリ是レ其犯罪ヲ爲ス時ニ能力ヲ喚起セサル塲合ニシテ英語ノ所謂「ミステー、キオフ、フハクト」ト云フモノナリ今之ヲ小別シテ左ニ講述スヘシ

其一　不意ノ出來事

不意ノ出來事トハ人アリ或ル正當ノ事ヲ爲サント思フテ働キシニ其所爲ノ結果ハ人ヲ傷ケ人ヲ殺ス如キ法律ニ違背スルニ至リタルモノニシテ換言スレハ意思ナクシテ起リシ所爲ナリ例ヘハ木ヲ伐ル際ニ木片飛テ傍ニ遊ヒ居リシ小兒ニ中リ遂ニ死ニ致シタル如キ塲合ナリ此塲合ハ過失殺傷ナレトモ之レニ似テ非ナルモノアリ卽チ其爲ス所ノ事ハ既ニ法律ニ背キ而シテ其爲スヤ意ナクシテ行ヒシモ不圖人ニ害ヲ加ヘタ

英吉利法律講義録　1886(明治19年)　第1年級第10号(1886年11月20日発行)

ルモノニシテ此場合ハ法律ノ禁セサルコトヲ爲シタルニ其所爲遂ニ人ヲ害スルニ至リタルモノナリ例ヘハ日本橋淺草ノ如キ群衆セル人ノ中ヲ乘馬ニテ駈驅シ爲メニ誤テ通行人ヲ踏ミ殺シタル如キ是ナリ元來罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セスト雖モ殊別ノ法律規則ニ於テ定メタルモノ卽チ或ル行政上ノ便宜ニ由リテ事ノ起ラサル前ニ注意ヲ促カセシニモ拘ハラス法律ニ背キタル所爲ヲナスモノハ意ナクシテ犯シタルノ故ヲ以テ其罪ヲ免カルヽコトヲ得ス例ヘハ新聞紙條例ニ背キタルモノヽ如キ其如何ナルコトヲ書クニ付テモ常ニ注意シ又一旦紙上ニ記シタルコトハ其有心故造タルト否トヲ問ハス必ス其責ニ任ス可キモノトス是レ第七十七條ノ但書ニ規定スル所ナリ彼ノ違警罪ノ如キハ固ト行政上ノ便宜ニ出テ敢テ罪質ヲ具備スルヲ要セサレハ殆ント其全部ハ無意ノ犯罪ヲ處罰スルモノ多キニアラン其

Mistake of fact

他日本ノ諸規則類ハ大抵此部分ニ屬スルコトヲ知ル可キナリ

第七回

其二　罪トナル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル時

罪トナル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタリトハ原語ニ「ミステーキ、ナフ、フハクト」ト云ヒ卽チ事實ノ錯誤是ナリ日本刑法第七十七條ノ二項ニ當ル塲合ナリ此例ハブラックストン氏ノ揭ケタルモノニシテ英國刑法家ノ常ニ引證スル處ノモノハ彼ノ一家內ニ盜賊押入リタルニヨリ家主ハ己レノ身體財產ヲ正當ニ防禦スル爲メ其侵入者ヲ毆打シタルニ其者ハ豈ニ圖ラン强盜ニ非スシテ其實自家雇人カ夜遊シテ私カニ門戶ヲ踰越シ歸リ來レルカ如キ是物的卽チ事實ニ錯誤アリタル者ナレハ其罪ヲ問フ可カラス其理由タル最モ睹易キモノニシテ固ト罪トナルヘキ事實ヲ知ラス誤テ正當ノコトヽ思量シ犯シタルモノナレハ

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

事實ノ錯誤及法律ノ錯誤ヲ混同スル場合

ろ Mistake of law

設ヒ何樣之ヲ責ムルモ已ニ犯シタル後ハ何等ノ効顯ナク又後來ヲ戒シメ錯誤ナカランコトヲ望ムモ如何ナル人ト雖モ正意ノ錯誤ハ之レナキヲ保シ難ケレハ之ヲ罰スルモ刑ノ目的ヲ達スルヲ得スシテ從テ刑罰ヲ當ツルノ必要ナケレハナリ元來事實ノ錯誤タル困難ナルモノニシテ之ヲ法律上ノ錯誤ト判然區分スルニ困シムコト多シ其例ハ世間ニ隨分アルコトナルカ土地ニ付境界論ノ起リシ際ノ如キ飽マテモ自己ノ所有地内ナリト信シテ樹木ヲ伐チタルニ境界論ノ定リテ見レハ遂ニ他人ノ所有地内ニアル樹木ヲ伐リタルコト分カリタリトスレハ其錯誤ノ原由ハ固ト是レ法律上ノ見解ヲ誤リタルモノニシテ從テ自己ニ權利アリト誤認セシモノナレハ決シテ犯罪トハナラサルナリ又此がばんハ自己ノ物ナルコトヲ信シテ持チ去リシニ全ク他人ノ物ナル時ナトハ皆是法律上ノ錯誤ニヨリ從テ事實ノ錯誤ヲ來シタルモ

事實ノ錯誤ハ免罪ノ理由トナルモ法律上ノ錯誤ハ其理由トナラス

ノナレハ犯罪者ナリトスルヲ得ス若シ是等ヲモ悉ク處罰スルニ於テハ天下ニ刑罰ヲ免ルヽ者ナキニ至ラン乃チ此等ノ錯誤ヲ稱シテ法律上ノ錯誤トセンカ將タ事實ノ錯誤トセンカ單ニ之ヲ法律上ノ錯誤トスルハ其當ヲ得サルモノヽ如シ

又例ヘハ山林ヲ賣買センニ日本ノ慣習トシテ一方ハ立チ木ヲ賣ラサルコトニ思ヒシニ他ノ一方ニ於テハ之ヲ買ヒタリト信シ其幾分ヲ伐チ取リシ時ノ如キ山林盜伐罪トシテ論センカ是又之ヲ罰スルハ其當ヲ得タルモノト云フヲ得サルヘシ然レトモ錯誤ニ由リ罪ヲ犯シタルトキハ設ヒ罰スルモ刑法ノ目的ヲ達スルコト能ハストシテ之ヲ不問ニ置クハ事實ニ錯誤アリタル場合ニ限ル者ニシテ法律上ノ錯誤ニハ之ヲ適用ス可カラサルナリ故ニ第七十七條ニ罪トナル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ其罪ヲ論セストアリテ法律上ノ錯誤ハ決シテ

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

相當ノ原由アリテ法律上ノ見解ニ誤ルヲ因テ誤ル事實ノ錯誤ハ之ヲ以テ事實ノ來リタルナリ其罪ヲ論セス

本項ニ關スル羅馬法ノ概畧

罪ヲ免ルヽノ理由トナスコトヲ得サルカ如シ猶第七十七條ノ文ヲ解剖シテ説明スレハ左ノ如シ

(一) 通則　事實ノ錯誤ハ法律上ノ責任ナシ

(二) 除則　法律上ノ錯誤ハ罪ヲ免ルヽコトヲ得ス

(三) 除々則　相當ノ證據ニ付見解ヲ誤リ一私人ノ權利ニ付錯誤ヲ爲シタル場合ハ事實ノ錯誤トナス

猶法律上ノ錯誤ニ付テハ説明ヲ要スルモノアリ卽チ古ヘノ羅馬法ニ由リテ見ルトキハ已レノ所有物ト他人ノ所有物トヲ定ムルハ法律上ニテ定ムルコトナレトモ自己ノ所有物ト信シテ他人ノ物ヲ奪フタルカ如キハ法律上ノ錯誤ナルニモ拘ラス之ヲ事實ノ錯誤ノ中ニ包含スル者トセリ又人間ハ一般道理力ヲ有スルモノトスレトモ婦人、幼者ノ如キハ極メテ經驗ノ少キ者ニテ悉ク國法ヲ知ル者ト推測ス可カラス

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

はに Malum in se
Malum prohibitum

殊ニ斯ル輩ニ其義務ヲ負ハシムルハ殘酷ナルカ故ニ良心ヲ以テ善惡ノ區別ヲ立チ得ヘキコト則チ固有ノ惡ニ付テハ此輩ト雖モ其罪ヲ免ルヽコトヲ得サレトモ法禁ノ惡ニ付テハ時トシテ法律ヲ知ラサルコトヲ以テ其責ヲ免ルヽコトアルヘシ卽チ婦女、幼者ノ如キ智識ニ乏シキモノハ布告布達ノ如キ租稅、證券印紙規則ノ如キ又ハ徵兵令、賣藥規則ノ如キニ背キタル場合ニハ其罪ヲ問ハサルモノトセリ又未丁年者ノ如キニ至テハ爲スノ義務ヲ負ハシムル法律上ノ責アルトキニ誤テ爲サヽル時ハ事實上ノ錯誤ト共ニ其責ヲ免レシムルコトアリシナリ然レトモ斯ノ如キ羅馬法ハ今日ニテハ次第ニ其勢力ヲ失ヒ法律上ノ錯誤ハ刑法上ノ責ヲ免ルヽ材料トナスニ足ラサルコトヽナレリ蓋文學ノ開ケ敎育ノ行ハルヽ社會ニ於テハ婦人ノ權力モ大ニ增進スレハナリ又此等ヲモ不問ニ置クヲ得サルノ必要ヲ增加シ來レハナリ

英吉利法律講義録 1887(明治20年) 第1年級第16号(1887年1月1日発行)

[ほ]Necessity or compulsion

以上二項ニ講シタル所ハ其人ノ知覺精神ヲ備フルモ其事實ニ付不意ノ出來事ノ爲メ或ハ物的ヲ錯誤シタル爲メ其時ニ限リ知覺精神ナキ場合ヲ論シタリ次ニ第三ノ場合ヲ講述スヘシ

其三　刑[ほ]法上ノ判斷力ヲ有シ且意思ヲモ有スト雖モ外物ノ刺衝ニヨリ止ヲ得ス已レノ意ニ反シテ其行爲ヲナシタル場合」

日本刑法第七十五條ニ抗拒ス可カラサル强制ニ遇ヒ其意ニ非ラサルノ所爲ハ其罪ヲ論セスト云フハ卽チ此ニ適合スル條ナリ精密ニ此場合」ヲ論スルトキハ罪ハ存スレトモ之ヲ宥恕シテ其罪ヲ問ハサルモノナリ卽チ止ヲ得サルニ出テヽ人ヲ殺シタルトキハ其所爲ハ惡ムヘシト雖モ之ヲ罰セサルナリ而シテ之ヲ不論罪ノ中ニ入レシト雖モ刑法ノ目的ハ同一ノ事ヲ將來ニ防遏スルニアリ然ルニ此場合ノ罪タル一度之ヲ罰スルモ其ヲ以テ永ク後來ヲ戒ムルコト能ハサレハ到底其目

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

的ヲ達スルコト能ハサルヲ以テナリ今之ヲ精細ニ解剖スルトキハ左ノ三種ニ大別スルコトヲ得ヘシ

第一　法律ノ脅迫ニヨリテ或ル所爲ヲ爲シタル場合

第二　他人ノ强迫ニ由リテ止ヲ得ス爲シタル場合

第三　天變地異ノ如キ其他抗拒ス可カラサル强迫ニ遇ヒテ爲シタル場合

法律ノ命令ヲ執行スル場合

（第一）法律ニテ脅迫サレタル場合

此場合ハ譬ヘハ裁判官カ誤リタル裁判ヲ爲シタルニ執行官吏タル者其裁判命令ヲ執行セサルヲ得サルカ如シ卽チ刑法第七十六條ノ本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタルモノハ其罪ヲ論セスト云フ場合ハ是ナリ

第八回

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

抗拒スヘカラサル強制ニ遇ヒ其意ニアラサルノ所爲ハ其罪ヲ論セス

前回ニ引續テ述ヘンカ此場合ニ其爲サントスル所業ノ惡事タルコトヲ知ルト雖モ止ヲ得ス之ヲ犯シタル場合ナリ又例スレハ豫審判事ノ命ニ由リテ人ヲ監禁スル如キ是ナリ此等ノ場合ニ於テハ自ラ好ンテ爲シタルニ非レハ刑ヲ受ク可キ責任ナキヤ勿論ノコトナリトス然レトモ筆生カ戸長ノ故意ヲ以テ惡事ヲ働クモノナルコトヲ知リナカラ戸長ノ命ナリトテ其事ヲ爲ス場合ノ如キハ强チ服從ノ義務アルモノト云ハレサレハ從テ其責ヲ免ルヽヲ得サルモノトス

（第二）他人ノ脅迫ニヨリ止ヲ得ス罪ヲ犯シタル場合

此場合ハ日本法律ニ於テハ刑法第七十五條ニ該當スヘキモノナリト思惟ス例ヘハ甲ハ乙ヲ殺害セントスルトキ乙其大難ヲ免レント欲シ丙ヲ突キ倒シテ逃レ去リ遂ニ丙ニ重傷ヲ負ハセシ如キ決シテ罪ト爲ラサルナリ卽チ第七十五條ニ抗拒ス可カラサル强制ニ遇ヒ其意ニア

英吉利法律講義録 1887(明治20年) 第1年級第16号(1887年1月1日発行)

法律上ヨリ脅迫アリト推測スル場合

ラサルノ所爲ハ其罪ヲ論セストアル所以ナリ

然レトモ全体ヨリ之ヲ論スレハ先ツ其事由タル重大ニシテ罪ヲ犯スニ非レハ到底逃レ能ハサル場合ニ限ルモノトス故ニ單ニ言辭ヲ以テ強制ヲ加ヘラレタル如キ場合ハ此内ニ入ラサルナリ

事實ノ脅迫トハ以上ノ如キ場合ニシテ別ニ了解ニ困シム程ノコトナケレトモ英國ニテハ法律ノ推測ニ依リ脅迫アリト論スル場合アリ例ヘハ妻カ夫ノ命令ニ由リテ罪ヲ犯シタル時ノ如キ是ナリ蓋シ是等ノ所爲ヲ罪トシテ論セサル所以ハ妻ハ夫ノ命ヲ受ケ夫ノ命ハ唯々諾々之ニ從フテ以テ妻タルモノヽ義務トハナレリ

現今日本刑法ニ於テモ其例少カラス例ヘハ父七年以下ノ幼者ヲ教唆シテ他人ノ家ニ放火セシムル如キ幼者ハ是非善惡ノ判斷力ナクシテ爲シタルコトナルカ故ニ罪トナラサレトモ教唆者タル父モ同シク無

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

罪ナルカト云フニ決シテ然ラス父ハ是非ノ判斷力ヲ有シ子ニ命シテ爲サシメタルコトナルヲ以テ放火ノ罪人タルコト勿論ナリ乃チ英國ニ於テモ未丁年者、被後見人ノ罪ハ之ヲ問ハス何トナレハ親ノ脅迫ニ由リテ犯シタルモノト見做スヲ以テナリ然レトモ此慣習タル次第ニ薄ラキ男女ノ間柄サヘ同權ナドト云フテ大ニ智識上ノ進歩ヲ來セシヲ以テ唯父ノ命夫ノ命アリシノミヲ以テ直チニ其間ニ脅迫アリシモノトノ法律上ノ推測ハ追々裁判上ニ其適用ヲ減少スルニ至レリ

日本今日社會ノ有樣ヲ觀察スレハ實際親ノ子ニ及ホス所爲多シ故ニ子ノ爲ス事ハ親ノ脅迫アリシモノトスル方或ハ事實ニ適合スルコトアルノミナラス裁判ノ公平ヲ維持スル爲ニハ最モ便利ナラン又我國刑法ニ於テハ右第七十五條ヲ附引シテ特別ノ不論罪ナルモノアリ即チ內亂徒黨ノ場合ニ於テ脅迫セラレ止ムヲ得ス附和隨行シテ犯シタ

英吉利法律講義録 1887(明治20年) 第1年級第16号(1887年1月1日発行)

ルモノハ之ヲ罰セサルナリ

或ル場合ニ於テハ脅迫ニ依リ是非トモ或ル罪ヲ犯ス可キ位置ニ陷リ止ヲ得ス其罪ヲ犯シテ逃レタルトキモ同シク脅迫ノ内ニ入レ置クモノナリ例ヘハ強盗來リテ金ヲ出ス可シト迫ル時恰モ其坐ニ贋造紙幣ノアルヲ幸ニ之ヲ貸與セシ如キ其使用セシ事ハ罪トシテ問ハサルナリ

又共同シテ強盗ヲ爲ス可シ爲サヽレハ汝ノ身ヲ殺害ス可シト迫ラレタル時止ヲ得ス其共ニ爲ス可シト云フ約定書ヲ作リタル如キ同シク不論ナルモノナリ

(第三) 凍餓ノ困難ニ際シ止ヲ得ス他人ノ衣食ヲ剝奪シタル場合此場合ハ我刑法如何ナル條ニ充ツ可キカ聊カ困難ヲ覺ユルモノナリ余ハ此ヲ第七十五條ノ二項ヲ以テ論セントス其項ニ曰ク天災又ハ意外ノ

變ニ由リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身体ヲ防衛スルニ出テタル所爲亦同シトアルヲ以テ此ニ充ツレハ可ナラン

彼ノ洋中ニ於テ難船シ其食盡キタルヲ以テ止ヲ得ス抽籤ノ上當籤者ヲ殺シテ其肉ヲ啖ヒタルカ如キハ是レ飢餓ノ爲メ己ムヲ得ス殺人罪ヲ犯シタルモノナレハ免罪ノ理由トナルヘク(英國ニ於テハ謀殺ノ罪ヲ以テ論ス)又一枚ノ板子能ク二人ヲ救フニ足ラサルトキ其中力ノ強キ一人ハ他ノ一人ヲ斥ケテ自己ノ性命ヲ完フシタル場合ノ如キハ即チ第七十五條ノ二項内ニ入ルヘキモノナラン又或ハ飢餓ニ迫リテ他人ノ食ヲ奪ヒ或ハ凍寒ニ迫リテ山中旅客ノ衣ヲ奪ヒ取リタルトキ即チ自身ヲ守ルニ急ニシテ遂ニ他人ヲ殺シタル場合ノ如キ皆然リ但身怠惰ニシテ衣食ノ途ヲ失ヒ貧困ノ餘衣食ニ窮シテ窃取シタル場合ノ如キハ此限ニアラサルナリ

英吉利法律講義録 1887(明治20年) 第1年級第16号(1887年1月1日発行)

犯罪ノ種類

第九回

第二章　犯罪ノ種類

我刑法ハ總則ヲ設ケ先ツ刑罰ノ何物タルコトヲ明ニセラルレトモ凡ソ犯罪アリテ然ル後刑罰ヲ要スルモノナレハ學理上ヨリ研究シ其大意ヲ知ラントスルニハ犯罪ノ種類ヲ講シタル後始メテ之ヲ加減スル懲罰ノ法則ヲ學フヲ至當ノ順序トス是レ余ノ直チニ犯罪ノ種類ヲ講述スル所以ナリトス

犯罪ノ種類ヲ區別スルコトニ付テハ種々ノ仕方アリ例ヘハ現行犯或ハ非現行犯、主犯或ハ從犯、人ニ對スル罪或ハ物ニ對スル罪ノ如キ其他數多シ其最モ著名ナルモノヲ列擧セント欲スルモ殆ト枚擧ニ遑アラサレハ茲ニ之ヲ盡サス

例ヘハ犯ス時ヨリ論スレハ現行犯、非現行犯トナリ又犯ス事柄ヨリ論

スルトキハ主犯、從犯トナリ犯ス所ノ權利ノ性質ヨリ論スルトキハ物ニ對スル罪或ハ人ニ對スル罪トナル其又物ニ對スル罪ノ中ニモ現行犯ト非現行犯ナルモノアリ今之ヲ圖セハ左ノ如シ

- 罪
  - 現行犯
  - 非現行犯
    - 人ニ對スル罪
    - 物件ニ對スル罪
    - 公益ニ關スル罪
    - 主犯或ハ從犯

卽チ犯罪ノ時、物的ヨリ區別スルモ現行犯ニ人ニ對スル罪ト物件ニ對スル罪ト公益ニ關スル罪トノ三種類アリ又其中ノ身躰ニ對スル罪ノ中ニ於テモ主犯アリ從犯アルモノナリ

故ニ一刑法ヲ規定スルニモ其時又ハ物或ハ結果ニヨリ區別スルコトク豫メ其目途卽チ區別ノ基礎ヲ定メサル可カラス之ヲ定メサルトキハ大ナル錯雜ヲ來シ他日如何ナル罪ハ何レノ條ニアルヤヲ見出スニ

不便ナリ而シテ其如何ナル目途ヨリ定ムルカハ實ニ必要ノ事柄ナリトス

人ニ由リテハいろは順ニテ見出ヲ作ルヲ便ナリトスル者アリ其云フ所ヲ聞クニ謀殺ナレハ(ぼ)姦通罪ナレハ(か)ノ字ヲ以テ區別スルヲ便ナリト然レトモ是レ一樣ハ睹易キモノヽ如クナレトモ其實否ラス彼ノ監視ノ如キ其如何ナル罪ニ科スルモノナリヤ之ヲ知ルニ難キモノアリ然レハ時ノ目途ヨリ區別センカ是亦不都合ナル塲合アリ故ニ犯サレタル權利又ハ物ノ性質ヨリ區別スルヲ第一トス日本刑法モ多分此主義ニ由リテ區別セシモノナラン故ニ刑法ヲ繙キ其大別セシ所ヲ見レハ(一)公益ニ關スル罪(二)身體ニ對スル罪(三)財產ニ對スル罪ノ如シ先ツ罪ノ結果ノ大小ニ區別ス但シ違警罪ハ格別ナリトス之ヲ圖スレハ左ノ如シ

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

罪
(一) 重罪、輕罪
(1) 公益ニ關スル罪
(2) 身體ニ對スル罪
(3) 財產ニ對スル罪
(二) 違警罪
(1) 四日金 二五條 3—10 1,00円—1,95
(2) 四日金 二六條 2—5 ,50—1,50
(3) 四日金 二七條 1—3 ,20—1,25
(4) 四日金 二八條 1 ,10—1,00
(5) 四日金 二九條 無 ,05—,50

而シテ違警罪モ(1)公益ニ關スル罪(2)身體ニ對スル罪(3)財產ニ對スル罪共ニ含畜スルモノナリ元來違警罪ハ罪ノ輕重ニ由リテ定メ重罪、輕罪ハ學問上ノ區別ニ由リ定メタルモノナリ彌々小區別ニ至レハ此義主ニ反スルモノアレトモ大體ノ主意ハ犯罪ノ輕重並ニ犯罪ノ目的ニ從テ區別セシモノナリ

日本刑法ノ一體區別ノ仕方ハ實ニ便宜ニシテ學者並ニ素人共ニ其利益ヲ得タリ蓋或ル場合ニ於テハ罪ノ輕重ニ由リテ區別ヲ立テタレハ

英吉利法律講義録 1887(明治20年) 第1年級第16号(1887年1月1日発行)

ナリ然レトモ知テ之ヲ繙カサレハ如何ナル罪其刑ハ何處ニ存スルヤハ知リ能ハサルモノナリ何トナレハ法文アリテ始メテ其輕重ヲ知ルモノナレハナリ又いろは順モ時ニ由リテ便利ナルコトアレトモ犯罪ハ必ス其目途ニ出テスシテ强盜ノ如キ一ハ人ヲ脅シ一ハ金ヲ取リ一ハ住居權ヲ侵ス如キ卽チ三ツノ所爲含畜スルモノナリ又放火罪ノ如キ一命ヲ危フシ財產ヲ蕩シ市民ヲ騷カシ一般ノ安寧ヲ害スル如キ種々ノ所爲アルヲ以テ人若シ放火罪ノ刑ヲ見ント欲シいろは順ニ由リテ人ヲ騷カシタルヲ以テ(ひ)ノ字ヲ見或ハ財產ヲ害セシヲ以テ(さ)ノ字ヲ見ルトモ決シテ容易ニ見當ラサルカ故ニ是亦良方法ニハアラサルナリ之ヲ犯罪ノ性質ヨリ區別スルトキハ財物ヲ竊取セラレタルトキハ窃盜罪ヲ見、又殺傷ニ關ス罪ナルトキハ謀故殺罪ヲ見ル如キ卽チ其物的ヨリ定ムルハ實ニ容易キコトナリトス此區分タル獨リ我國ノ法

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

律ノミナラス羅馬法ニ於テモ亦然リトス英國ニ於テハ箇條ヲ設ケアル場合ニ限リ常ニ此區別ヲナスモノナリ

余カ最初日本刑法ヲ講スルニ當リテ英法ノ區別ニ從ヒ述ルコトヲ約セシカトモ左スルトキハ錯雜スルノ恐アルヲ以テ此ニ其方法ヲ換ヘント欲ス

元來英國ノ區別ハ第一ニ身躰ニ關スル罪ヲ論シ第二ニ財產ニ關スルコト第三ニ公益ニ關スル罪ヲ論スレトモ余ハ日本刑法ノ區別ニ從ヒ左ノ順序ニ由リテ解說セン

第一　公益ニ關スル罪

第二　身體ニ對スル罪

第三　財產ニ對スル罪

第十回

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

前回ノ講義ニ於テ犯罪種類ノ大區別ヲ示セリ今日ハ其區別中ノ第一タル公益ニ關スル罪ノコトヨリ講述セン

斯ノ如ク罪ヲ區別スルニ付テハ稍〻錯雜ヲ來タスノ恐レナキニアラサレトモ實際至極便利ナル方法ト見ヘ英國刑法家モ大體ハ此區別ニ從ヘリ日本刑法ヲ講スルニ付テモ先ツ此區別ニヲ依サル可カラス

◯公益ニ關スル罪ヲ論ス

第一章　皇室ニ對スル罪

第一節　天皇三后皇太子ニ對スル罪

天皇三后皇太子ニ對スル罪

此罪ヲ分析スレハ

第一　危害ヲ加ヘタル罪

第二　若クハ加ヘントスル罪

第三　不敬ノ罪

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

是ナリ何故皇室ニ對スル罪ヲ公益ニ關スル罪ノ中ニ入レシカ其理由ヲ知ラサル可カラス恐レ多キコトナレトモ　天皇陛下モ亦人ナレハ學問上ヨリ云ヘハ玉體ヲ犯ス罪ハ矢張自體ニ對スル罪ノ中ニ入レサル可カラス然ルニ斯ク公益ニ關スル罪ノ内ヘ加ヘタル所以ハ　天皇陛下ハ日本國全體ヲ代表セラルヽモノニシテ　天皇陛下カ其御身危フケレハ國家モ亦危フキモノナルヲ以テナリ故ニ英國ニ於テモ此罪ヲ國事犯中ノ一ニ入レタリ共和國ナドニ於テハ無キコトナルカ帝王ノ君臨スル諸國ニ於テハ天皇ニ對スル罪ヲ公益ニ關スル罪トナシ普天ノ下率土ノ濱ニ至ルマテ天威ヲ頂キ天皇ノ御身ヲ害スル者ハ國家ヲ害スル者トナシ其罪ヲ論スルハ言フ迄モナキコトドモナリ此ニ說明ス可キハ天皇、三后、皇太子ト云フ文字ナリ

天皇ノ解

(一)茲ニ天皇ト云フハ現在ノ天皇御獨リミノヲ指シテ云フカ或ハ御先

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

天皇ハ無形人ナリ

祖ニ至ルマテ此語中ニ入ルモノナリヤト云フニ固ヨリ其御先代ヲモ包含スルヤ明ナリ何ントナレハ天皇トハ無形人ヲ指シ一ノ位ト見ル可キモノナレハナリ英國ニ於テモ天皇ハ死セスト云フ格言アレハ即チ神武天皇ヨリ今上天皇ニ至ルマテ無形人タル天位ニ差別ナキモノナリ又前後ノ文字上ヨリ見ルモ次ニ三后ト云フコトノアル以上ハ天皇モ亦御先代マテノ御方ヲ指シタルヤ敢テ疑フヘカラス英國法ノ解釋ニ由ルモ王位ト云フコトハ千代マテモ關係シテ云フモノナリ

(二)三后トハ支那及ヒ日本ノ制規ニ由レハ皇后、皇太后、皇太皇后是ナリ而シテ

(三)皇太子トハ御嗣君ヲ云フ

然レトモ此三后及ヒ皇太子以外ノ者ハ皆皇族ト稱ス可キカ否ラサレハ皇太子トハ如何ナル御方ヲ指ス乎此等ハ宜シク一國ノ憲法上ニ於

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)

テ定ム可キモノナリトス今日ニ於テハ天皇トハ卽位ノ式ヲ行フテ天位ニ在ラセラレ三后トハ天皇ノ奥方ニシテ皇太子トハ嗣君ナリト解スレハ足レリ

刑法第百拾六條ニ天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ストアルヲ見テ或人ハ亂暴ニモ若シ右ノ御方ニ對シ御身ヲ傷フタル者ハ罪ナカラン何トナレハ正條外ニアルヲ以テナリト誤リノ甚タシキモノト云フ可シ抑危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルノミニテスラ死刑ニ處セラル況ヤ御身ヲ傷フヲヤ奈何ソ其罪ナクシテ可ナランヤ

此ニ云フ危害ト云フコトハ別ニ六ケ敷コトニ非ス御身ヲ危フスルカ或ハ少傷ヲ爲スコト皆是レ危害ナリ又危害ヲ加ヘントシタル者トハ一議論アリテ既ニ危害ヲ加ヘタル者ヲ以テ死刑ニ處スルト云ヘハ加

ヘントシタル者ハ未遂犯ヲ以テ論ス可キモノナリト一樣左モアル可キコトナレトモ然シ其罪タル重且大ニシテ危害ヲ加ヘタル者ハ勿論加ヘントシタル者ニテモ死刑ニ處シ益〻鄭重ヲ加ヘタル者ナリ是レ獨リ我國ノ刑法ノミナラス英國ニ於テモ亦既遂未遂ヲ問ハス此等ノ罪ヲ處スルニ死刑ヲ以テセリ

不敬ノ罪

不敬ノ所爲アル者ノ刑ハ第百十七條ニ規定セリ元來此不敬ト云フ文字ハ曖昧ニ屬シ原語如何ナル文字ナルカト尋ヌルニ原書ニハ不敬ノ語ナク草案ニ於テハ其第百三十二條ニ天皇、皇后、皇太子ノ御前ニ於テ公然不敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其御前ニ非スト雖モ刊行ノ文書又ハ公然ノ演說ニ於テ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス云々ト其後修正ノトキ公然ナル文字ヲ削除シタル

英吉利法律講義録　1887(明治20年)　第1年級第16号(1887年1月1日発行)